

まえがき　く　忘れない　そして　前へく

本県は、平成二十二年度に、口蹄疫や鳥インフルエンザの発生、新燃岳の噴火などにより、大きな被害を受けました。しかし、私たちは、これらの体験を通して、命や絆の大切さについて改めて深く考える機会を得ました。口蹄疫終息宣言から二年が過ぎた平成二十四年八月二十七日には、「忘れない　そして　前へ」を合い言葉に、再生・復興の新しいステージに向かって、より力強く前進していくことの重要性を訴える知事メッセージが出されました。

県教育委員会では、今こそ、本県における事例を通して、命を大切にす豊かな心やふるさとを愛する心、地域課題の解決に参画する意識や態度を育む教育を充実させる必要があると考えました。

そこで、県民の体験したエピソード等を題材として、本県でしか作成できない道徳教育読み物資料集をつくり、県内の、小・中・高等学校、特別支援学校等に配布することで、児童生徒の感性に訴え、一人一人が人間としての生き方について深く考えることができる授業を支援することとしました。

編集にあたっては、「生命尊重」「友情・助け合い」「思いやり・親切」「郷土愛」「自然への畏敬の念」「人間愛・思いやり」「奉仕・公共の福祉」「不撓不屈」などの道徳的価値に関わる題材を、児童生徒の発達の段階に応じて、十五編作成しました。

十五編のうち二編は、県内の生徒が体験し感じたことを綴った文章を素材とし、若干改変したものです。その他は、実際に取材した事例に、それぞれ必要なフィクションを加えたものになっています。それは、授業で活用する際に、児童生徒の感性に訴え、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について、より深く考えることができる読み物資料にしたいという思いからです。

道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成しようとするものです。小・中学校や特別支援学校小・中学部等においては「道徳の時間」を中心に、高等学校や特別支援学校高等部等においてはホームルーム活動などで、それぞれの学校の実態や方針に沿った道徳教育が行われていることと思いますが、本書の趣旨を理解いただき、ぜひ指導計画に本書の活用を組み込んでいただくようお願いいたします。

最後に、本書の作成にあたって御尽力いただいた方々、取材や資料の提供に御協力いただいた方々、その他の多くの関係の皆様、心よりお礼を申し上げます。

平成二十五年三月

宮崎県教育庁学校政策課長　西立野　康弘